

李明（男）

黒龍江省出身

2005年4月～2007年3月 亜細亜友之会日本語学校

2007年4月 東洋大学経営学部に進学

2009年8月 東洋大学の交換留学生（公費）としてアメリカ・カリフォルニア州に1年間留学

私の留学経験

皆さんに私の留学経験を述べさせていただくことに対し嬉しく思います。また、私の留学経験が皆様に役に立てば幸いです。

来日したところ

時間の流れが速く、あっという間に日本に来てもう五年目になりました。今考えてみれば、日本に来られ、またここまで成長したことは、語学学校の校長先生と丁先生の教えがあったからだと思います。今もハルビンで校長先生と丁先生の面接場面をはっきり覚えています。人生において、偶然の出会いが一人の人生を変えられることもあると実感しています。来日前はほんの少し触れた程度の簡単な日本語しかできなかつたので、来日当時は少しも日本語は聞き取れませんでした。しかし、亜細亜友之会日本語学校の先生方の熱心なご指導と私個人の努力の結果、東洋大学へ進学することができました。また、語学学校卒業の時には、校長先生から進学奨励金が渡され、それを振りかえって見ると、この奨励金が如何に大きく役に立ったかがわかります。つまり、「知識はお金に等しい」という意味を深く理解することができました。

大学生生活

大学入学後、成績が学部全体で第三位になったため、毎年奨学金を受けることができました。当初、奨学金面接を受けるために、亜細亜友之会日本語学校を数回お訪ねし、校長先生と丁先生に面接時の内容を添削して頂くご指導を受け、おかげで奨学金面接に合格しました。つまり、私が言いたいことは、卒業したとしても母校である亜細亜友之会日本語学校はいつも面倒を見てくれたことです。

アメリカ留学

今年、東洋大学の交換留学生としてアメリカへ派遣されることになり、8月にアメリカ・カリフォルニアで1年間交換留学することになりました。アメリカへ留学するために、あらゆるアルバイトを辞める苦渋の決断をしました。毎日、朝から夜11時まで英語の勉強に没頭し、数ヶ月継続してTOFEL試験に合格しました。即ち、日本では成功するために思い切って頑張れば必ずよい結果（功夫不付有心人）が得られるということです。

日本は一つのステップであり、ここでひとり立ちができるよう自分を更に鍛え、適応力を高め様々な人生経験を積むことは、今後の生活と仕事に大きな役割を果たすと確信しています。

李明続編

アメリカ留学から日本へ戻り（フライトでの随筆）

今、アメリカから日本へ戻る飛行機の中にいます。時間の流れが速く、1年間のアメリカ交換留学生生活は既に終わりました。この1年間を振り返ってみると以下の事柄がありました。

1、英語能力のアップ

アメリカ留学前に満足できるTOFEL成績を獲得しましたが、アメリカに着いた最初の一日目から自分の会話が如何に下手であるかを感じました。1年間の努力の末、今は日常生活における会話は自由に話せるようになりました。

2、視野を広げた

19才の時来日し、5年間の日本生活を通して異文化に対する一定の理解ができ、今回のアメリカ留学で自分の視野を更に広げることができました。アジアの文化だけではなく欧米文化の体験もできました。何かの事柄にあった時には、ある考え方に制限されず自由奔放に考えるようになり、価値観に大きな変化をもたらしたと感じています。特に、一ヶ月の冬休み期間中に列車と車などでアメリカの20州くらいを周り、アメリカに対する理解が更に深まりました。(旅終了後に書いた感想文が大学の新聞に掲載された)

3、人間関係のネットワークが広がる

世界31カ国72名の留学生と一年間一緒に留学生生活を過ごしてきました。サンフランシスコの米中交流協会が主催したイベントでは、中国各地から来た政府要員と知り合うことができました。また、大学でノーベル賞を受賞した先生の講演に出席し、交流もしました。自分の所属する大学がアメリカ・シリコンバレーに立地した関係で、多くの公共福祉活動に参加する中で各分野から参加した映画監督、アメリカ籍中国人、日本人等々と友たちになりました。

アメリカ留学中に非常に感動したのは、語学学校時代の丁先生から何回もご心配のお電話をいただいたこと、日本にいる時も私は隠さずいろんなことを相談したりしました。日本では親戚がおりませんが、このように異国にいる自分を心から世話してくれることで日本に親戚がいるような感覚でした。

逆境中の曙光

アメリカ留学から帰って、現在日本で引き続き勉強しながら就職活動をしているところです。大学3年生の時アメリカへ留学したことで、日本へ戻ったら大学4年の5月になりました。この時期に就職活動は非常に難しく、私のようにアメリカに1年間留学したものは、日本では空白の1年になり、これがまた就職活動を更に難しくしました。この時、語学学校時代の校長先生と丁先生が助けの手を伸ばしてくださり、数回にわたって就職活動に関する流れや面接方法などを教えてもらいました。今もはっきり覚えています。ある時4時間ほど指導を受け、校長先生は学校経営の経験、丁先生は長期日本に滞在した中国人としての経験などを面接で生かせるよう教えてくれました。私はその教えて下さった言葉を筆記し、録音した内容を電車の中でも歩く時も繰り返しヒアリングして自分のものになるように練習を重ねました。このような指導を受けたことで、数回における面接でパスすることができました。校長先生と丁先生の教えは、まるで暗い中の灯台のように私の将来の道を照らしてくれました。私自身はその励ましの中で無限の勇気とエネルギーを得ました。いつ、どこでも学生一人一人の面倒を見てくれることが、亜細亜友之会日本語学校の姿であり、卒業生として最も感動していることです。